

水草研究会第8回全国集会報告

本研究会の第8回全国集会は、1986年8月2日の午後から3日にかけて、福島県裏磐梯の国民休暇村で開催された。北は宮城、山形から南は広島まで34名の参加者があった。みちのくのためか参加者は例年より少なかったが、大小300余の湖沼が存在する豊かな自然、裏磐梯の勇姿に接し、参加者一同心のなごみを感じることができたとと思われる。

講演 (8月2日午後)

座長 桜井善雄氏

①大滝末男(東京・淑徳短大)

五色沼湖沼群の水草

②生嶋 功(千葉大・理)

ブラジル・リオドウシ湖沼の水草研究

③原田市太郎(北大・名誉教授)

水草の性表現

座長 浜島繁隆氏

④星 一彰(福島・福島東高)

尾瀬沼のコカナダモについて

⑤国井秀伸(島根大・理)

島根県松江市近辺の水草相

⑥薄葉 満(福島・いわき市役所)

トウゴクヘラオモダカについて

講演終了後、自家用車に分乗して休暇村近辺の現地研修会を開催した。休耕田を利用したジュンサイ栽培地では、ヒツジグサ、コカナダモなど確認できた。ヒツジグサは農家にとっては雑草ということであった。コカナダモは裏磐梯では新発見である。自然の湖沼では最初に星沼を観察した。トンボ類の多い沼なので星沼と命名し大切に保護してきたが、残念ながら私有地のため草刈がなされていた。曾原湖は、ソウギョの放流やボート利用などによって水草が著しく減少してしまった。レンゲ沼はノハナショウブが美しく開花しており、ヒシが見られた。短時間ではあったが裏磐梯の複雑な自然の一部を理解することができる研修会であった。

午後6時半から9時まで、恒例の懇親夕食会が開催され、原田名誉会長作詩による水草研究会の歌が紹介された。

8月3日は天候に恵まれ、休暇村のマイクロバスにて8時出発、エクスカージョンに向かった。まず五色沼自然教室を見学し、管理員富田国男氏の案内で、約4kmの五色沼探勝路に向かい付近の水草を確認した。

見沙門沼では、ウグイ、アブラハヤの中にニシキゴイ



が目立ち(国立公園特別保護地区)不評であったが、フサモの群落は人気があり、撮影会のもようであった。

水草はもとより、11個の湖沼のそれぞれ独特の美しさ、自然景観に魅せられることが多かった。西柳沼ではエゾノヒルムシロを確認することができた。弥六沼は、アヒルの飼育などにより、水生植物が著しく減少していた。辺地のため交通の便が悪く、12時に松原湖畔で解散した。

集会の準備や運営の面で行き届かないことがあったと思われるが、参加各位のご協力によって第8回集会有意義に終了することができたことを感謝する次第である。

(星一彰記)

総会報告(議長 加崎英男氏)

○報告事項

1. 会員移動(1985.8~1986.8)

入会	20名
退会	6名

会則8条による退会 16名

会員数 246名(1986年8月31日現在)

2. 昭和60年度会計報告

(収入)

前年度繰越金	-37,709
会費	524,750
別刷代	25,000
バックナンバー売上金	12,000
寄付	397,500
その他	4,200
利息	5,141
合計	930,882円

(支出)

会報印刷費	412,000
会報発送費	137,930
事務費(通信費, 文具類)	10,630
合計	560,560円
次年度繰越金	370,322円

会計監査報告

昭和61年7月23日神戸大学教養部において水草研究会の帳簿を監査した結果、使途および記録が適正に行なわれていることを確認いたしました。

神戸市立岩岡中学校
教諭 碓井信久 ㊞

3. 会報編集状況

予算の関係でページ数の切り詰めを余儀なくされているが、貴重な内容の原稿を掲載でき、喜こんでいる。なお、毎回原稿が不足気味なので積極的な投稿をお願いしたい。

4. その他

昨年の総会で参加の呼びかけがあった日本雑草学会主催『雑草防除夏期研究会—水生雑草の生態と管理』(7月11・12日、於倉敷)に、10名余りの当会会員が参加した。

○審議事項

1. 役員改選

午前中の役員会が時間切れのため、総会の場に推薦すべき最終案がまとまらなかった。そこで、次期役員会の決定を現役員会に一任した。

[結果については、別項を参照下さい。]

2. 次年度全国集會開催地

広島にお願いすることになった。(角野 記)

役員改選の報告

本会の会則(会報No19, p.16参照)第5条によって、今年役員改選の年に当たります。去る8月2日の総会の前に役員会を開き、新しい役員構成を総会に計るべく協議しましたが、大滝会長からすでに連続3期にわたるので会長を辞退したい旨の強い申し出があり、結論をうるに至りませんでした。

幸い総会において、次期役員会の決定を現役員会に一任されましたので、同日夜、再度会合をもち、大滝会長に留任をお願いしました。先生は会の気風刷新の為ということで、改選を強く主張されましたが、本会の現状に鑑み引続き会長を勤めて頂くのが最も望ましいことから、役員一同再三懇請し、ご承諾願いました。

一方角野先生も、面倒な事務局と会報編集を引続き担当して下さることを快諾して下さいました。

したがって、他の役員も全員留任とし、むこう2年間(1986.'87年)下記のような役員構成で、本会の運営と発展の為に努力することになりましたので報告いたします。

会長 大滝末男

副会長 浜島繁隆・桜井善雄

幹事 太田敬久・沖陽子・角野康郎・国井秀伸

田中修・林浩二・別府敏夫(アイウ順)

(桜井 記)